

KIOXIA

2024 環境報告書

2024 Environmental Report

キオクシア株式会社
四日市工場

工場概況

所在地	三重県四日市市山之一色町800番地
敷地面積	694,000㎡ (駐車場を含まず)
設立	1992年1月
工場長	清水 和裕
従業員数	約7,200名(2024年3月31日現在)
主要製品	半導体メモリ製品 (BiCS FLASH™、NAND型フラッシュメモリなど)

製品の紹介

個人向け製品

- SSD
- microSDメモリカード
- SDメモリカード
- USBフラッシュメモリ

法人向け製品

- 3次元フラッシュメモリ BiCS FLASH™
- UFS & e-MMC
- SLC NANDフラッシュメモリ
- XL-FLASH™ストレージクラスメモリ
- 改ざん防止機能付きSDメモリカード
- エンタープライズSSD
- データセンター SSD
- クライアント SSD

3次元フラッシュメモリ 「BiCS FLASH™」の特長

- 平面構造のNAND型フラッシュメモリと比較し、ダイあたりメモリ容量大容量化
- 書き込み・読み出し性能の高速化
- 隣接するメモリセル間の干渉影響を低減することによる信頼性向上
- エネルギー消費効率の向上



SSD : Solid State Driveの略で、記憶媒体としてフラッシュメモリが使用されています。
 UFS : 汎用的なフラッシュストレージを意味するUniversal Flash Storageの略で、eMMCより高速な組み込み用ストレージとして、スマートフォン等の様々な製品に使用されています。
 e-MMC : 組み込み用マルチメディアカードを意味するembedded Multi Media Cardの略で、スマートフォン等の製品組み込み用ストレージとして使われています。
 SLC : Single Level Cellの略で、1つのセルに対して1ビットの情報を保存でき、正確性や信頼性、耐久性に優れています。
 XL-FLASH™ : データセンターやクラウドプロバイダ、エンタープライズの様々なニーズに応えるフラッシュメモリ製品の1つです。当社従来品に比べて低遅延・高性能・高信頼性のストレージクラスメモリソリューションを提供します。



NVMe™ SSD



microSD
メモリカード



SDメモリカード



USBフラッシュメモリ



エンタープライズSSD



データセンターSSD



クライアントSSD



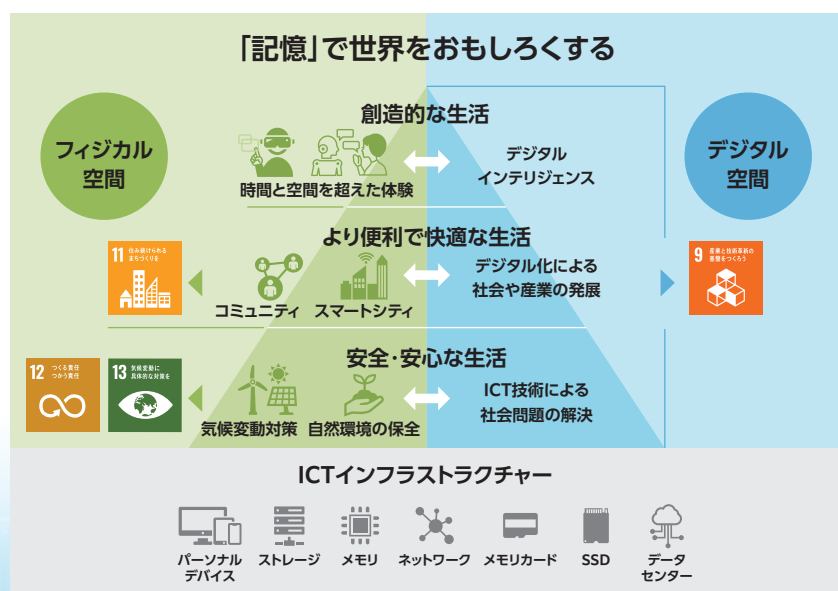
■ 事業で社会課題の解決に貢献

2015年9月、国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた17の持続可能な開発目標(SDGs)は、2016年1月1日に正式に発効しました。2030年まで、すべての人に普遍的に適用されるSDGsに基づき、各国がその力を結集し、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしないための取り組みです。

SDGsは、あらゆる形態の貧困に終止符を打つため、貧しい国も、豊かな国も、中所得国も、すべての国々に対して、豊かさを追求しながら、地球を守ることを呼びかけることを狙いとしています。

「キオクシア」という社名には、社会が生み出す「記憶」を蓄え、活用し、新しい「価値」を創造して世界を変えていくという強い意志が込められています。当社は、「記憶」で世界をおもしろくする、というミッションを掲げ、フラッシュメモリやSSDの提供を通じてSDGsの達成に貢献します。関連するSDGsを取り組み事例に記載しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



目次

はじめに	1
工場概要	1
製品の紹介	1
事業で社会課題の解決に貢献	2
ごあいさつ	3
キオクシアグループ環境方針	4
環境活動トピックス	5.6

環境コミュニケーション	7
社会貢献活動	7
地域コミュニケーション	8
社内教育・啓発	9
社外からの評価	10

モノづくりにおける環境負荷低減	11
温室効果ガス(PFC等ガス)削減	11
エネルギー起源CO ₂ 削減	11
廃棄物削減	12
化学物質管理	13
化学物質削減	13
製品含有化学物質管理	14
グリーン調達	14

環境保全の取り組み	15
ISO14001	15
環境保全体制	15
環境目標	16
監視体制	17
大気・水質の管理状況	17
環境施設	18
緊急事態対応訓練	18
法令順守	19
よくあるQ&A	19

データ編	20
環境測定データ	20
環境負荷(マテリアルバランス)	21
環境会計	21
PRTR(化学物質の排出量・移動量等の把握)	21
四日市工場の軌跡	22
環境活動のあゆみ	22

■ ごあいさつ

当工場は、半導体メモリ製品の生産拠点として1992年に設立されました。当初はDRAMを生産していましたが、2002年にNAND型フラッシュメモリの生産を開始し、現在は3次元フラッシュメモリを中心に生産しています。市場の伸長とともに工場の規模も拡張を続け、現在では7つの製造棟を有する世界最大級の半導体メモリ工場になりました。また、次世代半導体の研究・開発も強化し、2018年にはメモリ開発センターが稼働を開始しました。研究開発と生産が連携した世界最先端の半導体メモリ工場を目指して、現在も進化を続けています。

2019年10月には社名を「キオクシア」に変更し、「『記憶』で世界をおもしろくする」というミッションを掲げ、私たちがつくり出すフラッシュメモリが、世界中に溢れる情報を記憶し、後世に伝えていく重要な役割を担うものと期待しております。

NAND型フラッシュメモリは、USBメモリ等の可搬記憶メディア、スマートフォン、タブレット、携帯電話、パソコン、デジタルカメラなどさまざまな製品で、情報を「記憶」するためのストレージ部品として使用され、世界中の人々にとって欠かすことのできない存在となりました。また、最近ではクラウド等、ビッグデータを取り扱う分野にも活用の幅が広がっています。

一方で、パリ協定で合意された温室効果ガス排出量削減への貢献や、国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)への参画など、当工場に対する社会からの期待や要請が確実に高まりつつ

キオクシア株式会社
四日市工場長

清水 和裕



あります。それらに応えるべく、私たちは法令や社会規範を遵守することはもちろん、事業を通じて社会課題の解決に貢献できるよう努めます。

現在、豊かな自然や人材、優れた産業基盤を持つ「三重県四日市市」から世界を舞台に事業展開ができるのは、地域の方々のご理解をはじめ、関係する皆様からの日頃からご支援、ご厚情があるからこそと深く感謝致しています。

今後も、当工場は、良き企業市民として、コンプライアンス、環境保全、社会貢献などCSR(企業の社会的責任)に力点を置き、より良い地球環境の実現と社会の発展に貢献していきたいと考えています。また、皆様に愛され、そして信頼される工場を目指して参りますので、より一層のご支援、ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





■ キオクシアグループ環境方針

— 理念 —

キオクシアグループは、貴重な地球環境を未来に引き継いでいくため、事業を通じた価値創造と環境の維持向上を推進し、持続可能（サステナビリティ）な社会の実現に貢献いたします。

— 方針 —

キオクシアグループは、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ、環境法規制の要求事項の遵守と汚染防止、情報インフラを支えるメモリ製品とその応用製品、及び関連するソフトウェア製品の提供とバリューチェーン全体を通じた環境負荷低減、国際的な枠組みに沿った計画的な製造時の温室効果ガス排出削減に取り組んでいきます。また、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、効果的な運用を推進します。

— 実行 —

- 1) 高容量化、小型化、省電力化による製品開発、製品の環境事前評価、及び原材料の適正管理と使用量削減を行い、メモリ製品とその応用製品、及び関連するソフトウェア製品の社会への提供を通じて、社会の環境負荷低減に取り組めます。
- 2) 省エネルギー技術の開発、生産性の向上、動力及び製造設備を中心とした省エネルギー施策、クリーンエネルギー導入の検討など、温暖化ガス排出量削減の取り組みにより地球温暖化防止を推進します。
- 3) 循環型社会構築のために生産性の向上、省資源型技術の開発など、3Rの取組みを積極的に進めます。水資源の有効活用の観点では、工場立地周辺の豊かな水資源を大切に使い、きれいに自然に還します。
- 4) 使用する化学物質の管理ならびに特定した化学物質の削減に係わる技術の開発、取扱量及び環境排出量の削減施策の実施、汚染防止の取り組みにより環境リスクの低減を実現します。
- 5) 生物多様性の保全を行うために、事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、関連する社会貢献活動を推進します。
- 6) 環境広告・展示会やメディアを通じた、メモリ製品とその応用製品、及び関連するソフトウェア製品の省エネルギー技術などの情報発信、地域・社会との協調連帯により、ステークホルダーとの相互理解の促進に取り組めます。
- 7) 組織の従業員の環境意識を高め、環境に配慮した企業活動を従業員全員で実行します。

この環境方針は、社内外に開示するとともに本組織で働くすべての従業員に方針を周知し、方針に沿った企業活動を推進します。

キオクシアホールディングス株式会社

代表取締役社長 早坂伸夫

■ 環境活動トピックス

自家消費型太陽光発電システムの導入

当社は、2040年度までに再生可能エネルギーの比率を100%にする目標を2020年に設定し、2023年4月には、2050年度までにグローバルな事業活動に伴う温室効果ガス排出(事業場からの直接排出(Scope1)及び購入エネルギー使用に起因する排出(Scope2))をネットゼロ(温室効果ガスの排出量と吸収・除去量を差し引きゼロ化)にするという新たな目標を設定しました。

この目標の達成に向けて、地球温暖化係数の高いPFC等ガスを高効率に除害する装置の新規製造棟100%導入を継続するとともに、省エネ型の製造装置や動力設備の導入、太陽光発電システムの設置、再生可能エネルギー証書の調達等を進めていきます。第6製造棟屋上へ自家消費型太陽光発電システムを設置し、2023年6月よりPPAモデル※による電力購入を始めました。さらに第5製造棟屋上へ同システムを設置し、2024年7月より稼働を開始しました。

※Power Purchase Agreement(電力販売契約)モデル。電力販売事業者が太陽光発電システムの設置・所有・保守・管理を行い、発電された電力を工場が購入します。



第6製造棟太陽光発電システム



第5製造棟太陽光発電システム

環境インターンシップ

三重大学の学生を受け入れ、環境インターンシップを実施しています。2023年9月、学生5名が環境マネジメントシステム、環境測定、廃棄物管理等の環境業務体験を通じて、将来の仕事やキャリアについて考える機会になりました。



環境分析業務体験



発表会

学生のみなさんの主な感想

- 就職の大きなモチベーションとなりました
- 半導体を知り興味が持てました
- 徹底された環境対策と数多くの社会貢献活動に感動しました

フクロウ保護活動支援

当社は、事業活動が生物多様性に及ぼす影響を把握し、生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、社会貢献活動を推進することを目的に、生物多様性保全の活動を進めています。

当工場は、三重県立四日市西高校(自然研究会)と三重県立桑名高校(MIRAI研究所)が進める「フクロウ保護プロジェクト」の取組みを推進するため、産官学による「みえ生物多様性パートナーシップ協定」を2018年に締結しました。

本活動では、地域の豊かな自然環境を次世代に継承するため、フクロウの産卵から巣立ちまで観察する機材の支援を通じて、2019年から5年連続して巣立ちを観察することができました。また、4者協議により、本活動の円滑化を図っています。

※三重県、四日市西高校、桑名高校、及び当工場



ひな



巣立ち

年	主な活動実績と今後の予定
2018	<ul style="list-style-type: none"> ● みえ生物多様性パートナーシップ協定の締結 ● 観察機材の仕様決定 ● 当工場従業員による観察機材の設置・調整 ● 社内外PRスタート
2019	<ul style="list-style-type: none"> ● 2018年度活動総括と2019年度活動計画に関する3者協議 ● 観察機材の強化(ソーラパネル追加、バッテリー追加、カメラ及びHDDレコーダ更新)
2020	<ul style="list-style-type: none"> ● 2019年度活動総括と2020年度活動計画に関する3者協議 ● 観察機材の改善(HDD交換、電源のインバータ交換、通信不具合対応(ルーター交換))
2021	<ul style="list-style-type: none"> ● 協定の再締結(以降、年毎に自動更新) ● 2020年度活動総括と2021年度活動計画に関する3者協議 ● 観察機材の支援 ● 協定の見直し(桑名高校を追加)
2022	<ul style="list-style-type: none"> ● 2021年度活動総括と2022年度活動計画に関する4者協議 ● 観察機材の支援
2023	<ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度活動総括と2023年度活動計画に関する4者協議 ● 観察機材の支援
2024	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年度活動総括と2024年度活動計画に関する4者協議 ● 観察機材の支援



こども環境教育

2009年から実施している近隣小学校での環境教育に加えて、2018年から「四日市市公害と環境未来館」で「こども環境講話」を実施しています。

小学生と保護者の方に参加いただき、実験等を通じて地球温暖化を学び、環境にやさしい暮らし方を考えました。当工場のグリーンルーム内をバーチャルリアリティで見学するなど、当工場を知っていただく機会となりました。また、2023年8月、朝日町の学童施設で環境講話を初めて実施しました。

2009年からの受講者数累計は約3,200名です。



四日市市公害と環境未来館



バーチャルリアリティ体験
(四日市市公害と環境未来館)



近隣小学校(四日市市)



学童施設(朝日町)

こどもたちが考えた環境にやさしい暮らし方

- 不要な電気はつけない
- お風呂や歯磨きで水を
- 省エネ家電に買い替える
- 出しっぱなしにしない
- 太陽光パネルを屋根につける
- ご飯は全部食べる
- モノを大切に使う
- 早寝早起きをする

感謝状を拝受しました

四日市市社会福祉協議会より、フードライブ活動及びカレンダー・手帳の寄贈に対して、それぞれ感謝状を拝受しました。



フードライブ(2024年6月)



カレンダー・手帳(2024年1月)

RBA監査でプラチナ・ステータスを取得

2023年8月、当工場はRBA*の認証する第三者機関による監査を受審しました。その結果、監査項目である環境に加えて、労働、安全、倫理、マネジメントシステムにおいて適正な管理が認められ、最高得点である200点満点を獲得し、RBA認証プログラムにおける最上位のステータスであるプラチナを取得しました。

*RBA(Responsible Business Alliance(責任ある企業同盟) 本部:米国バージニア州)について

グローバルなサプライチェーンにおいて労働者及びコミュニティの権利と福祉を支援する非営利組織で、北米、ヨーロッパ、アジアなど世界各地に拠点を持っています。RBAは社会、環境、倫理に関する行動規範を示しており、継続的な改善をサポートするためにさまざまなプログラムやトレーニング、評価ツールを提供しています。現在までに500社以上の企業・団体がRBA、Responsible Minerals Initiative(RMI)、Responsible Labor Initiative(RLI)、Responsible Factory Initiative(RFI)に加盟しており、合計年間収益は7.7兆ドル超、直接雇用の労働者数は2,150万人以上、製品は120以上の国で製造されています。



RBA監査プログラムの認定書

四日市市吉崎海岸清掃活動

アカウミガメ(絶滅危惧種)の産卵環境保全を目的として、地域が主催し四日市ウミガメ保存会が共催する吉崎海岸(四日市市楠町)の清掃活動に協力しています。当工場の環境月間イベントとして、従業員とその家族約140名が参加しました。(2024年6月)



大学での環境講義

四日市大学で環境講義を行い、学生38名と社会人3名に工場概況・コンプライアンス・SDGsの取り組み・環境負荷低減活動を説明しました。また、グリーンルームのバーチャルリアリティ体験やウェハをご覧いただき、当工場をご理解いただく良い機会となりました。(2024年6月)



社会貢献活動

資源物回収を通じた社会貢献

構内常駐会社を含む全従業員がさまざまな資源回収に取り組んでいます。



1. カレンダー・手帳回収(2007年~)

年末年始に工場内で不要なカレンダー・手帳を回収し、四日市市社会福祉協議会へ寄贈する活動に取り組んでいます。これらは老人ホームや養護施設などでリユースされ、手帳は聴覚障がいのある方との筆談ノートとしても役立てられます。(2023年度実績: カレンダー1,504部、手帳426冊)

2. ボトルキャップ回収(2008年~)

ペットボトルキャップを回収し、売却代金が認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じて発展途上国のポリオ予防支援に役立てられます。(2023年度実績: 約415,000個、ワクチン830本相当)

3. チャリティecoバザー(2012年度~)

従業員が家庭の不要品を持ち寄り、従業員へ販売する社内バザーを実施しています。バザーを通じて不要品の有効活用(リデュース、リユース)に加え、収益金を四日市市緑化基金へ寄付し、四日市市の緑化にも貢献しています。(2023年度実績: 約38,900円寄贈)

4. 書きそんじハガキ回収(2014年~)

書きそんじハガキを回収し、開発途上国の教育支援を行う「世界寺子屋運動*(日本ユネスコ協会連盟)」に協力しています。(2023年度実績: 102枚回収、5,665円相当)

*世界には学校に行けない子ども(6-17歳)が約2億4400万人、文字の読み書きができない大人(15歳以上の成人)が約7億6300万人います。1989年に開始した「ユネスコ世界寺子屋運動」は、基本的人権として、年齢、宗教、性別にかかわらずすべての人が公平に教育の機会を得られるように、無償で学ぶ機会を応援する活動です。SDGsの達成に向けた取り組みのひとつとして、世界各地の貧困地域で「学ぶ場=寺子屋」を通して人材を育成し、自立した持続可能な社会づくりを応援します。

5. 使用済切手回収(2015年~)

使用済み切手を回収し、NPO法人「地球の友と歩む会」へ寄贈しています。収益金は「インド・インドネシアでの農業支援」に役立てられます。(2023年度実績: 2,875枚)

6. 羽毛回収(2015年~)

使用済み羽毛製品を回収し、売却代金を三重県共同募金会に寄付する「羽毛プロジェクト」に協力しています。寄付金は、四日市市・朝日町の地域貢献活動支援に役立てられます。(2023年度実績: ダウンジャケット3着)

7. 使用済コンタクトレンズケース回収(2016年~)

コンタクトレンズ専門店「アイシティ」を展開するHOYA(株)が実施している使い捨てコンタクトレンズの空ケースリサイクル運動「アイシティecoプロジェクト」に協力しています。回収した使用済コンタクトレンズケースは、ポリプロピレンとしてリサイクルし、リサイクルにより得られた対価の全額を日本アイバンク協会へ寄付しています。(2023年度実績: 29,410個)

8. アルミ缶回収(2016年~)

障がいのある方が地域で自立した生活を送るための支援として、従業員が家庭のアルミ缶を持ち寄り、障がい者自立支援施設「あさけワークス」に寄贈しています。「あさけワークス」では、障がい者がアルミ缶を機械でつぶす作業を行っており、それをリサイクル業者に売却して工賃(給料)にしています。(2023年度実績: 1,897本、2,466円相当)



9. 古本回収(2018年～)

読まなくなった本を通じてNPOを支援する「チャリボン(バリューブックス)」に協力しています。当工場は、こどもの未来応援国民運動推進事務局(こども家庭庁、文部科学省、独立行政法人福祉医療機構)が運営する「こどものみらい古本募金」に古本の売却金を寄付しています。寄付金は、こどもや若者の生活・就労貧困の状況にあるこどもたちに寄り添い、こども食堂や学習支援等の草の根の活動を行っているNPO等の支援に活用されています。(2023年度実績:5冊)

10. マスク回収(2020年 ※単年度活動)

当工場従業員の家庭で不要なマスクを回収しました。福祉施設等で活用いただくことを目的として、一般社団法人「ネクストステップ

研究会」を通じ、四日市市社会福祉協議会へ回収したマスク約2,600枚を寄贈しました。

11. フードドライブ(2021年～)

フードドライブは各家庭で余った食品を持ち寄り、それを必要とする人々に寄付する活動です。こども食堂や生活困窮家庭を支援する四日市市社会福祉協議会の取組みに協力しています。(2023年度実績:474品寄贈)

12. 車いす(2021年 ※単年度活動)

当工場で10年経過した車いすの更新に伴い、四日市市社会福祉協議会へ3台寄贈しました。寄贈した車いすは、市内在住の方への貸出用として活用されています。

■ 地域コミュニケーション

■ 地元自治会様との環境連絡会

地元自治会様と定期的に連絡会を開催し、水質・大気などの環境測定データや緊急事態対応訓練状況など、地域の安心・安全につながる環境保全への取り組み状況について報告しています。

今後も地元と密着した企業活動が推進できるよう、継続してコミュニケーションを図っていきます。



「地元自治会様との環境連絡会」(2023年11月)

■ 環境報告書発行

当工場の環境の取り組みを多くの方にご理解いただくために、2003年度より環境報告書(サイトレポート)を発行し、今回が第22版となります。

また英語版を作成し、当社Webサイトで公開しています。今後も「読みやすい環境報告書」を目指し発行を継続していきます。こどもたちにも理解いただけるよう『かんきょうパンフレット』も発行しています。



環境報告書



かんきょうパンフレット

■ 環境展示

2008年より四日市市、三重県などが主催する環境イベントに毎年参加しています。当工場の環境活動や当社メモリ製品の紹介、クリーンルーム内のバーチャリアリティ体験を通じて、地域とのコミュニケーションを図っています。



「四日市市環境フェア」(2023年12月)



「環境パネル展」(2023年7月)

■ 社内教育・啓発

■ 環境教育

構内常駐会社を含む、当工場の構内で働く全ての従業員を対象として、年1回、環境教育を実施しています。教育テキストには、地球温暖化防止、コンプライアンスをはじめ、気候変動、ネットゼロカーボン、SDGsといった世界が注目している事柄も含めています。

また、各部門が独自で取り組む必要がある環境活動についても、各部門が独自に教育テキストを作成しており、従業員が積極的に環境活動に取り組むきっかけになっています。

さらに、環境に大きな影響を与える可能性のある業務に従事する従業員に対する特定従業員教育に加え、各部門の組織長、新規配属者、内部環境監査員といった環境教育も実施しています。

区分	教育名	内容
階層別教育	管理者教育	各部門長の責任と権限
	一般従業員教育	環境マネジメントシステム改正点、環境方針、環境目的・目標など
	新規採用者／転入者教育	地球環境問題、環境マネジメントシステム、環境方針など
職能別教育	特定従業員教育	環境法令などの順守事項、特定業務の作業標準書と手順を逸脱した場合の環境影響など
	環境監査員教育	監査員の役割と責任、環境法令などの改正状況など

■ 月間行事

毎年、6月の環境月間、10月の3R(リデュース、リユース、リサイクル)推進月間、2月の省エネルギー月間には、従業員の環境意識を高めるため、従業員参加型の行事を実施しています。

1. 環境施設見学会

四日市市クリーンセンター(2023年10月)や第6製造棟の太陽光発電システム(2024年2月)など、環境に関わりの深い施設の見学会を実施しました。見学を通じて資源有効活用や省エネに関する理解を深めています。

2. 3Rマイスター検定

当工場独自の3Rマイスター検定(2023年10月)を実施し26名のマイスターが誕生しました。マイスターは、各部門のキーマンとして3Rの推進に取り組んでいます。(マイスター累計人数は196名)

3. チャリティecoバザー

従業員が家庭の不要品を持ち寄り、従業員へ販売する社内バザー(2023年10月)を実施しました。バザーを通じて不要品の有効活用(リデュース、リユース)に貢献するとともに、収益金を四日市市緑化基金へ寄付し、四日市市の緑化にも貢献しています。(2023年度実績: 38,900円)

4. 工場周辺道路清掃

環境月間と3R推進月間に、工場長を含む当工場従業員有志が工場周辺の道路を清掃しています。2024年6月の清掃活動では、110名の従業員が参加し約20kgのゴミを回収しました。

5. クイズを通じた環境意識向上

2023年10月の3R推進月間、2024年2月の省エネ月間、2024年6月の環境月間にそれぞれ「3Rクイズ」、「省エネクイズ」、「ecoクイズ」を実施しました。多くの従業員から解答があり、環境意識の向上につながりました。



第6製造棟太陽光発電システム



四日市市クリーンセンター



3Rマイスター検定



工場周辺道路清掃



チャリティecoバザー



■ 構内緑化活動 (フラWA~PJ)

環境意識の向上、イメージアップ、及び従業員の癒し空間創出を目的として、当工場構内の各建屋周辺を花でいっぱいにする活動(フラWA*~PJ)を2017年6月より展開中です。2024年6月

には植え替えイベントを開催し、各部門から多くの従業員が参加しました。

*WAには、仲間の輪、わかちあい、和(なごみ)、笑いなど色々な意味を込めています。



■ 省エネ壁新聞／環境情報「ecoタイム」の発行

当工場の省エネ活動トピックス、各部門の省エネ担当者インタビュー、国内外の省エネ動向等を紹介する「省エネ壁新聞」を2014年4月より発行しています。

また、当工場の環境活動トピックス、各部門独自の環境活動、家庭でできるエコな取り組み、国内外の環境動向等を紹介する環境情報「ecoタイム」を2017年5月より発行し、従業員のさらなる環境意識醸成に役立てています。最近では、地球温暖化防止につながるさまざまな取り組み、再生可能エネルギーの動向、環境に関わる各国の法規制、SDGs、ESG投資といった世界が注目している事柄について情報発信を心がけています。



省エネ壁新聞
(2024年5月号)



ecoタイム
(2024年6月号)

■ 社外からの評価

■ 省エネ推進功労者表彰(2023年度)

省エネルギーに貢献した個人を対象とした「省エネルギー推進功労者 一般財団法人省エネルギーセンター東海支部長表彰」を受賞しました。受賞した従業員は、同工場の省エネ設備の導入・運用を牽引するとともに後進の育成にも努めています。



省エネ推進功労者表彰受賞者

■ 感謝状を拝受しました(2023年度)

四日市市社会福祉協議会より、フードドライブ活動及びカレンダー・手帳の寄贈に対して、それぞれ感謝状を拝受しました。



フードドライブ



カレンダー・手帳

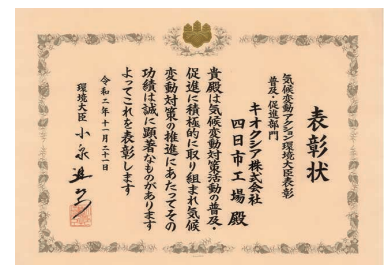
■ 令和二年度気候変動アクション環境大臣表彰受賞

2020年11月に環境省から「気候変動アクション環境大臣表彰(普及・促進部門の緩和分野)」を受賞しました。この表彰は、地球温暖化対策推進の一環として、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体をたたえるもので、同工場の組織横断的な省エネ活動や、地域に密着した気候変動緩和の取り組みを評価いただきました。

令和二年度 気候変動アクション 環境大臣表彰



Minister of the Environment



■ 温室効果ガス(PFC等ガス)削減



■ 排出削減への取り組み

ウェハ上に薄膜を形成するP-CVD(プラズマCVD)工程、Metal-CVD工程、Hot工程、配線やコンタクトホールを微細加工するDRY(ドライエッチング)工程において多量かつ多種類のPFC等ガスを使用しています。当工場では地球温暖化対策の一環として、製造工程での排出量削減を取り組みの柱とし、「源流から排出までの削減」に注力しています。

2023年度の削減施策は、①PFC等ガスを温暖化係数の小さいガスに分解し排出する除害装置の設置、②高効率プラズマ装置の導入、③反応室のクリーニング時間の最適化、④反応室のクリーニング頻度の最適化です。特に①は常に設置率100%を維持しており、設置がない場合に比較して排出量を92%削減し、排出量削減に寄与しています。2023年以降も、引続き製造と結びついた使用量削減の施策を展開して排出削減に努めていきます。



PFC等ガス除害装置

施策No.	施策名	工程	対象ガス	備考
①	除害装置の設置	P-CVD, DRY, Metal	CF ₄ , C ₄ F ₈ , CHF ₃ , SF ₆ , NF ₃ , CH ₂ F ₂ , CH ₃ F, CH ₄ , N ₂ O	新規導入設備にも設置継続
②	高効率プラズマ源の導入	CVD, Metal	NF ₃	展開継続
③	反応室クリーニング時間の最適化	Metal	NF ₃	展開継続
④	反応室クリーニング頻度の最適化	CVD	NF ₃	他工程へ展開継続

■ エネルギー起源CO₂削減



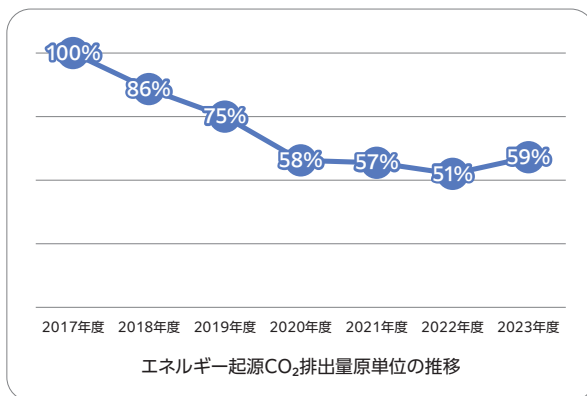
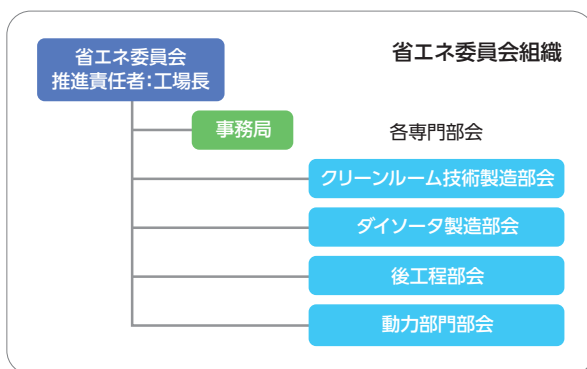
■ 排出削減への取り組み

当工場の生産技術、製造、施設の各部門が、組織横断的にエネルギー起源CO₂削減に取り組むため省エネ委員会を組織し、その下部組織として各専門部会(クリーンルーム技術製造部会、ダイソータ製造部会、後工程部会、動力部門部会)を組織しています。

毎年、各専門部会においてエネルギー起源CO₂削減目標を設定し、製造設備・動力設備における省エネ施策を立案・展開しています。また、隔月で省エネ委員会を開催し、省エネ推進責任者(工場長)へ省エネ進捗状況や提案事項等について報告・審議しています。

2023年度のエネルギー起源CO₂排出量原単位*実績は、2017年度比41%改善しました。

*原単位目標には活動を評価できる指標として、当工場の生産メモリ容量原単位を使用。



専門部会	主な施策
クリーンルーム技術製造部会	製造装置のスループット改善、都市ガス・温純水使用量削減、チラーレス化など133施策
ダイソータ製造部会	省エネ装置の導入など5施策
後工程部会	高効率テスト導入、処理能力向上など12施策
動力部会	動力設備の運転最適化など146施策



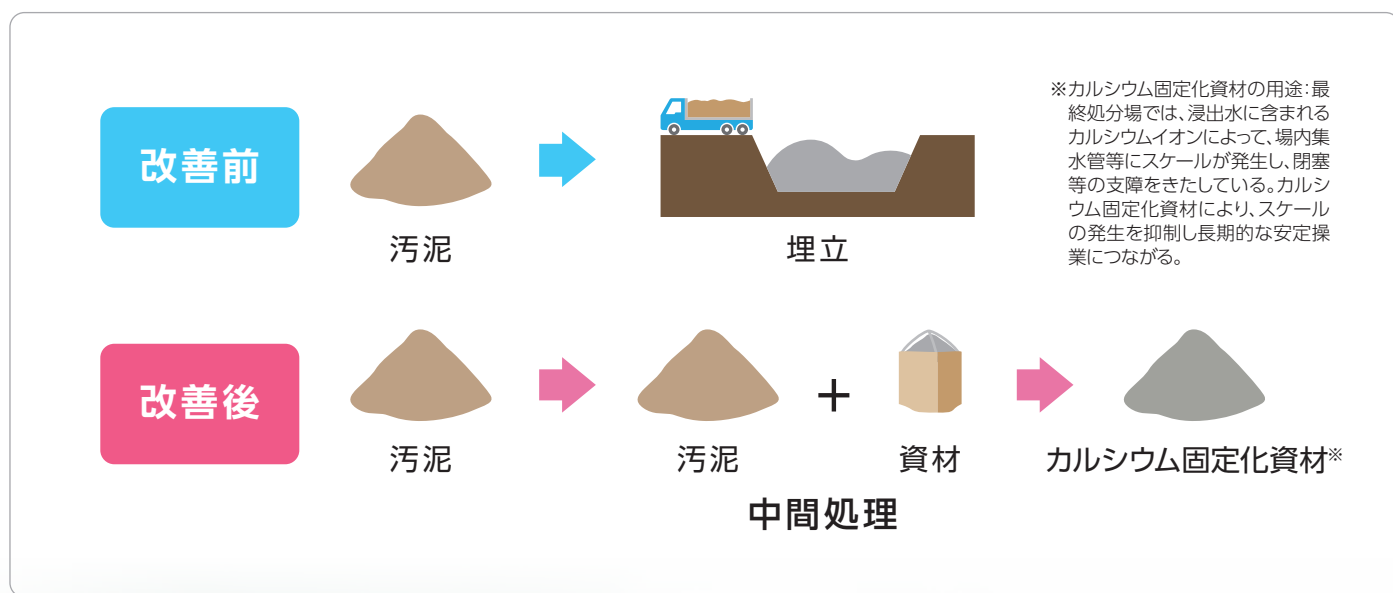
■ 廃棄物削減 12 2018 2020

工場の規模拡大にともない廃棄物の発生量は増加傾向ですが、サプライチェーン全体を通じた環境負荷軽減を目指し、資源の有効活用に努めています。製造過程で発生する廃棄物の回収・

再生活用に加えて、製造プロセスの改善等による薬品・ガスの使用量削減などにも積極的に取り組んでいます。

■ 汚泥の最終処分量削減事例

従来、汚泥を埋め立て処理していましたが、最終処分場で使用されるカルシウム固定化資材[※]の材料として活用し、リサイクルすることができました。削減効果は1,800t/年です。

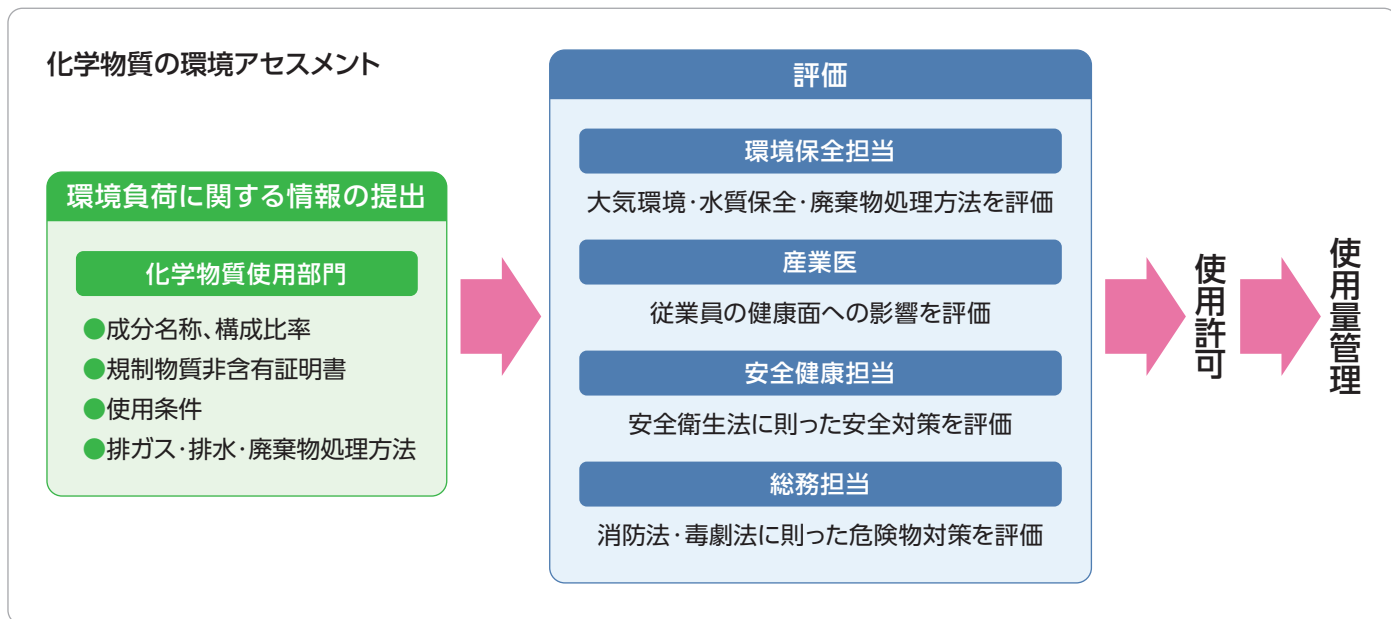


■ 化学物質管理 12 2014 2018 ∞

「化学物質はできるだけ使用しない」「可能な限り削減・代替化に努める」「使用する場合は適正に管理する」ことを基本的な考えとして化学物質を管理しています。

新たに化学物質を使用開始する前に環境アセスメントを実施し、

当社が定める規制物質の含有有無や適正な処理方法を確認することにより、環境負荷低減に努めています。使用開始後はオンライン集計システムを用いて使用量の変動状況を毎月管理しています。



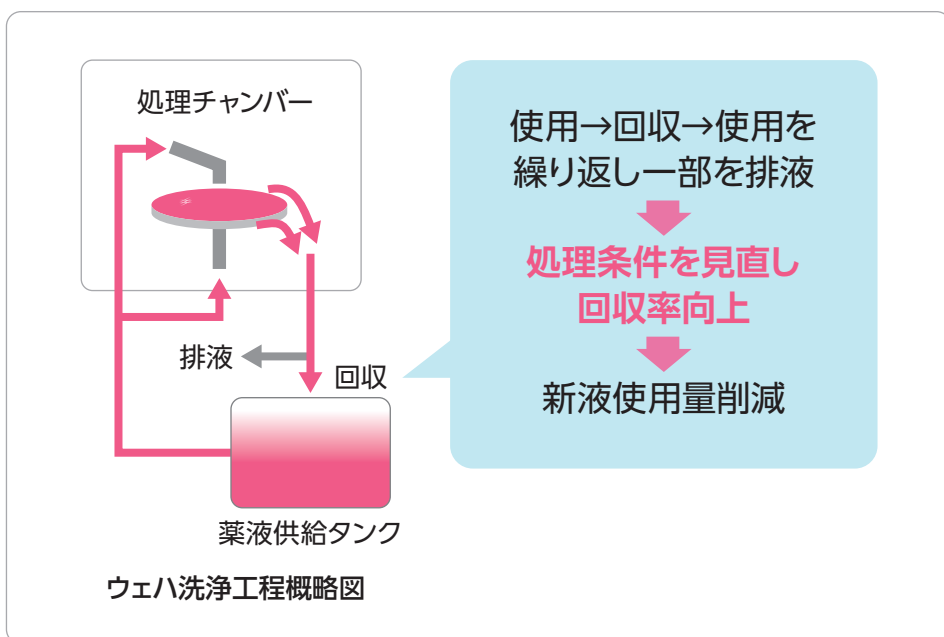
■ 化学物質削減 12 2014 2018 ∞

■ 化学物質排出量削減事例

法規制の有無や漏えいした場合のリスクを評価して重点的に環境負荷低減対策を実施するべき化学物質を特定し、使用量削減・代替化に努めています。

一例として、ウェハ洗浄工程の処理条件を見直すことによって排液していた薬液を回収できるようになり当該工程でのウェハ1枚あたり使用量を約1/2削減できました。

今後も環境負荷低減に向け3R(リデュース、リユース、リサイクル)を念頭においた技術開発を進めていきます。





製品含有化学物質管理



製品含有化学物質規制が年々強化されています。主な規制として、EUではRoHS指令をはじめ、包装材指令、REACH規則等が施行されています。また、EU域外でもEU RoHS指令に類似した法律の規制化が世界各国に広がっています。これらの規制に対応するため「調達禁止物質」及び「調達管理物質」を定め、製品に含有してはならない、あるいは含有を管理すべき物質を選定しています。

製品の開発段階で製品環境アセスメントを行い、新規原材料、製品に含有される化学物質情報を確認しています。このような取り組みを通じて、製品または製品の製造工程の有害物質を可能な限り使用しないよう、より環境負荷の小さい材料を選定するよう努めています。

区分	定義
調達禁止物質※1	当社が調達する納入品への含有を禁止する物質群です。当社のグリーン調達ガイドラインで定める除外用途を除く全ての用途での納入品への意図的添加がないこと、及び規制値がある場合は不純物の濃度が規制値未満である必要があります。ただし、規制内容に意図的添加の禁止が定められていない用途は意図的添加や不純物の濃度が規制値未満である必要があります。
調達管理物質※2	当社が調達する納入品への含有について管理の対象となる物質群です。調達禁止物質とは異なり、調達管理物質は、納入品への意図的添加を制限するものではなく、対象となる物質の含有の有無及び含有濃度について、お取引様及び当社が漏れなく把握すべき物質をいいます。意図的添加もしくは不純物に関わらず、調達管理物質に該当する物質の含有の有無及び含有濃度についてお取引様による当社への情報開示が必要になります。

※1 鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ポリ臭化ビフェニル類(PBB類)、ポリ臭化ジフェニルエーテル類(PBDE類、DecaBDEを含む)、フタル酸エステルのうち9物質(DEHP, BBP, DBP, DIBP, DINP, DIDP, DNOP, DNHP, DMEP)、アスベスト類、一部のアゾ染料・アゾ顔料(特定アミンを形成するもの)、オゾン層破壊物質(CFCs, HCFCs, HBCFCs, 四塩化炭素等)、ポリ塩化ビフェニル類/ポリ塩化ターフェニル類(PCB類, PCT類)、ポリ塩化ナフタレン(塩素数が1以上のもの)、短鎖型塩化パラフィン(炭素鎖長10-13)、トリブチルスズ(TBT)類/トリフェニルスズ(TPT)類、酸化トリブチルスズ(TBTO)、ヘキサクロロベンゼンなど、当社が規定する70分類の物質。

※2 アンチモン及びその化合物、ヒ素及びその化合物、ビスマス及びその化合物、多環芳香族炭化水素(PAHs)、臭素及びその化合物、ニッケル及びその化合物、セレン及びその化合物、亜鉛及びその化合物、塩化パラフィン(短鎖型塩化パラフィンを除く)、三価クロム化合物、コバルト及びその化合物、シアン及びその化合物、パーフルオロカーボン(PFC)、ハイドロフルオロカーボン(HFC)、塩素及びその化合物、マンガン及びその化合物、有機スズ化合物(TBT類、TPT類、三置換有機スズ化合物、DBT化合物及びDOT化合物を除く)、六フッ化硫黄(SF₆)、PFAS類(PFOS及びその類縁化合物、ペルフルオロオクタン酸(PFOA)とその塩及びPFOA関連物質を除く)など、当社が規定する27分類の物質。

グリーン調達



当社は、「『記憶』で世界をおもしろくする」というミッションのもと、貴重な地球環境を未来に引き継いでいくため、事業を通じた価値創造と環境の維持向上を推進し、持続可能(サステナビリティ)な社会の実現に貢献することを目指しています。環境への取り組みを経営の最重要課題の一つと位置付け、環境法規制の要求事項の遵守と汚染防止、情報インフラを支えるメモリ製品とその応用製品、及び関連するソフトウェア製品の提供とバリューチェーン全体を通じた環境負荷低減、国際的な枠組みに沿った計画的な製造時の温室効果ガス排出削減に取り組んでいます。

ビジネスのグローバル化が進む中、パリ協定で合意された温室効果ガス排出削減や、国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)への貢献等、当社を含めた各企業に対しては持続可能な社会の実現に向けた社会的要請が確実に高まりつつあります。それらに応えるべく、私たちは法令や社会規範を遵守することはもちろん、事業を通じて社会課題の解決に貢献できるよう努めています。そのために当社はサステナビリティ重要課題(戦略マテリアリティ)に、「人権尊重」「持続可能なサプライチェーン」「気候変動」「環境配慮」「健康と安全」等を選定し、グループ一丸となってこれらの活動を深化させております。このような取り組みの一つとして、今後も当社は『グリーン調達』活動を推進していきます。

『グリーン調達』とは、当社の調達取引先様にも積極的に環境保全を推進していただき、より環境負荷の小さい製品・部品・材料等を調達することです。有害化学物質等による環境負荷やリスクの低減を考慮した上で事業活動を進めるためには、当社のサプ

チェーン全体にわたる活動が不可欠であり、ビジネス上重要なパートナーである調達取引先様の協力が欠かせません。

当社では、製品及び製品に関わる部品・材料等に使用される物質は、開発検討・設計段階において事前に環境影響の評価を行い、製品及び製品の製造工程においては有害物質を極力使用しないよう、より環境負荷の小さい製品・部品・材料等を選定するよう努めています。

調達取引先での環境保全の推進

当社は全ての調達取引先に、製品に含まれる化学物質の管理を含めた環境保全についてのマネジメントシステム構築をお願いし、国際規格であるISO14001やISO9001の最新バージョンの認証取得を推奨しています。

納入品の含有化学物質の管理

当社に納入される品に対して、以下の徹底をお願いしています。

1. 納入品の含有化学物質管理体制の構築
2. 有害化学物質の削減等、グリーン調達の実施
3. 接触等による納入品への化学物質の移行や転写の防止対策
4. 当社がお願いする化学物質含有状況調査をはじめとする各種調査への回答



グリーン調達ガイドライン

ISO 14001

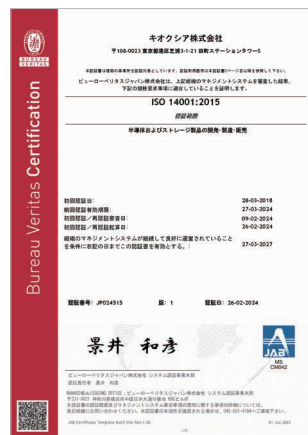
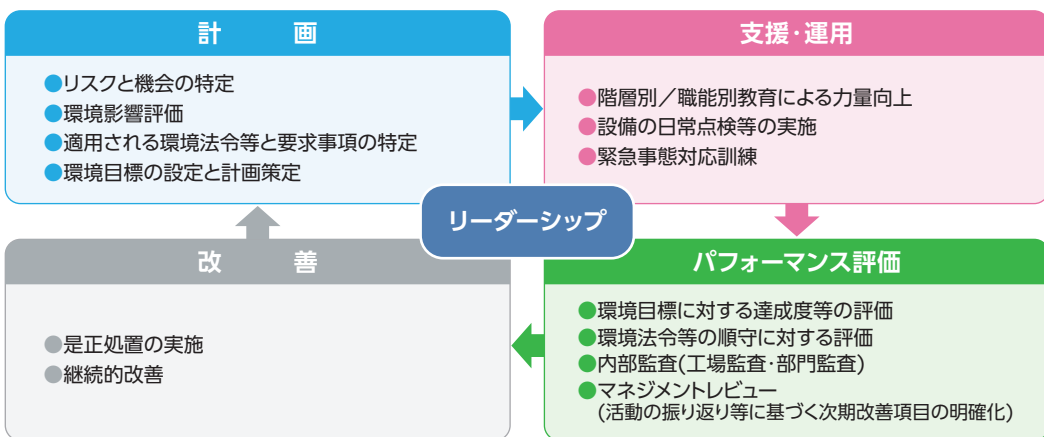


当工場では、国際規格ISO14001に準拠した環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、継続的な改善・向上に取り組んでいます。事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止、環境負荷低減施策を進めた製品の創出などに関する環境目的及び目標を設定して、積極的な環境施策を展開しています。

2023年度は、地球温暖化防止・資源有効活用施策等の展開による環境負荷原単位の改善、太陽光発電設置拡大、温室効果ガス排出ネットゼロに向けた取組み推進、各種監査対応(ISO14001更新審査、環境施設監査、GHG・LCA*第三者検証、顧客監査)などの取組みを推進しました。

*GHG: Green House Gas 温室効果ガス
LCA: Life Cycle Assessment ライフサイクルアセスメント

環境マネジメントシステム



ISO14001認証書

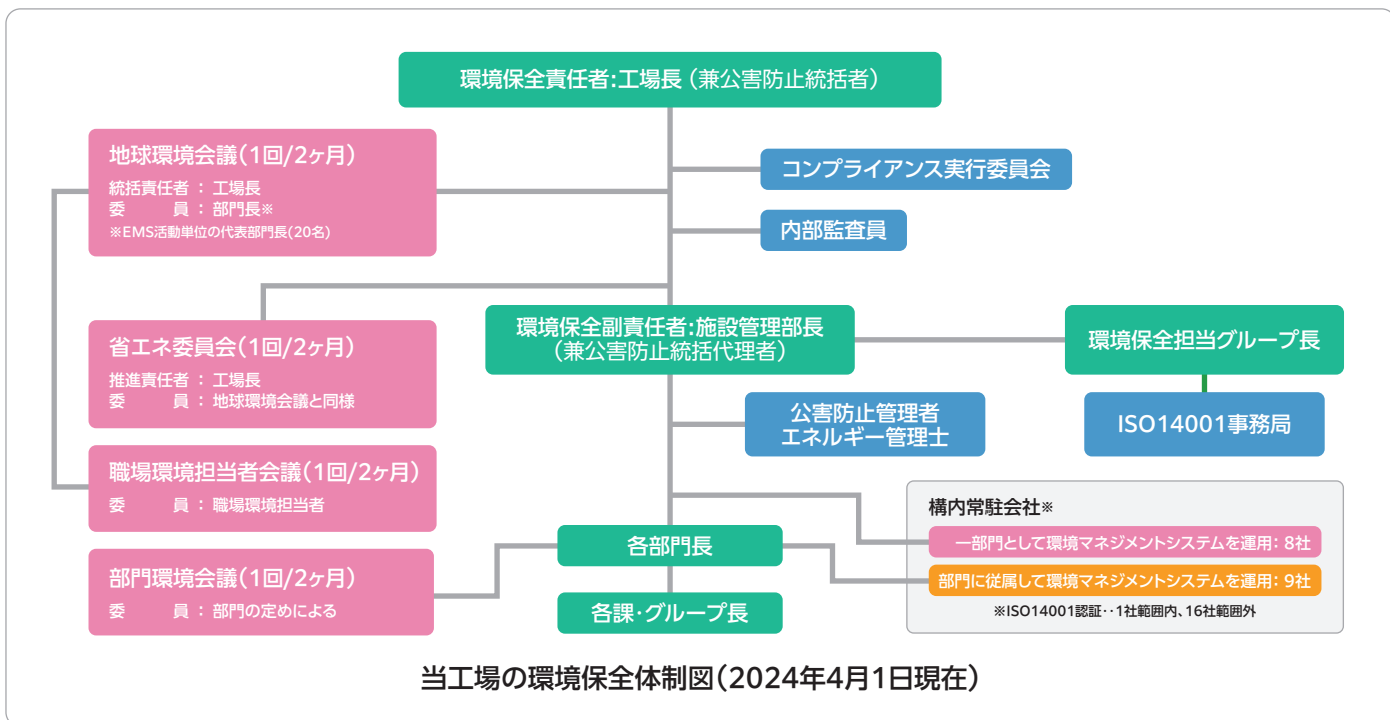
環境保全体制



環境保全活動を継続的かつ効果的に推進するため、工場長をトップとする環境保全体制を構築し、責任及び権限を明確に定めるとともに、環境保全に関する最高審議機関として地球環境会議を設置して、環境マネジメントシステムや環境目的などを審議しています。

また、法令などの順守を監督するコンプライアンス実行委員会を設置し、順法の徹底を図っています。

構内常駐会社を含む全ての従業員が、事業活動における環境負荷低減活動や、環境を通じた社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。



当工場の環境保全体制図(2024年4月1日現在)



■ 環境目標

毎年、前年度の環境目標達成状況やパフォーマンス、当工場への要求事項、環境情勢の変化などを環境影響評価の結果に反映し、

環境目標を設定しています。2023年度は、さまざまな施策を通じて目標を達成することができました。

■ 2023年度環境目標と結果

No.	環境目的	環境目標	目標値	実績	評価
1	環境配慮型製品の創出・社会への提供	環境貢献製品開発による環境負荷低減(微細化による製品と製造プロセスの環境負荷低減)	3施策	3施策	○
2	地球温暖化防止	エネルギー起源CO2削減排出量原単位の改善(2017年度基準)	64.9%以下	58.5%	○
3		温暖化物質排出量原単位*の改善(2017年度基準)	71.9%以下	53.7%	○
4		再生可能エネルギーの導入	第6製造棟屋上太陽光発電設備運用開始:6月	稼働開始(6月)	○
5			第5製造棟屋上太陽光発電設備設置:工事	工事中(進捗80%)	○
6		資源有効利用	廃棄物総発生量原単位*の改善(有価物含む)(2017年度基準)	53.4%以下	45.3%
7	廃棄物量原単位*の改善(産業廃棄物)(2017年度基準)		61.9%以下	54.5%	○
8	水資源受入量原単位*の改善(2017年度基準)		66.1%以下	61.6%	○
9	環境リスク低減	化学物質排出量原単位*の改善(2017年度基準)	33.9%以下	27.8%	○
10	構内緑化	従業員の癒し空間の創出とお客様等へのイメージアップ(各建屋花壇の植栽)	通年	各建屋植え替え、維持管理(通年)	○
11	社会貢献活動及び環境コミュニケーション	社外環境イベントへの出展	1件	・夏の環境パネル展出展(7月) ・四日市市環境フェア出展(12月)	○
12		地元環境連絡会の開催	1回	地元環境連絡会開催(11月)	○
13		四日市大学での環境講義	1回	講義実施(6月)	○
14		環境報告書の発行	・日本語版:8月発行 ・英語版:12月発行	・日本語版:8月発行 ・英語版:12月発行	○
15		こども環境教育の実施 ・四日市公害と環境未来館 ・近隣小学校	2か所	・四日市公害と環境未来館(8月) ・朝日町学童(8月)・近隣小学校(12月)	○
16		三重大学環境インターンシップ	1回	実施(9月、5名受入)	○
17		フードドライブ活動(生活困窮家庭支援)	1回	474品	○
18		使い捨てコンタクトレンズケース回収(角膜移植の啓発・普及支援)	通年	29,410個	○
19		羽毛回収(四日市市・朝日町の社会貢献活動支援)	通年	ダウン3着	○
20		使用済み切手回収(インド・インドネシアでの農業支援)	通年	2,875枚	○
21		書きそんじハガキ回収(発展途上国の教育支援)	通年	102枚回収	○
22		チャリティ eco バザー(四日市市の緑化整備支援)	1回	実施(10月)(38,900円寄贈)	○
23		ペットボトルキャップ回収(発展途上国のポリオ予防支援)	通年	415,000個(ワクチン330本相当)	○
24		余剰カレンダー・手帳回収(養護施設・幼稚園・保育園等での利用)	1回	カレンダー1,504部、手帳426冊	○
25	環境意識向上	環境関係強調月間の開催(環境月間、3R推進月間、省エネルギー月間)	3回	3回	○
26		環境情報誌「ecoタイム」/「省エネ壁新聞」の発行	12回	12回	○
27	生物多様性	フクロウ保護活動支援(みえ生物多様性パートナーシップ協定)	通年	・孵化確認(4月、2羽)・巣立ち確認(5月、2羽) ・4者協議(9月)・寄付(12月)	○
28		海岸清掃(ウミガメの産卵環境整備支援)	2回	清掃実施(6月、9月)	○

※原単位目標には活動を評価できる指標として、当工場の生産メモリ容量原単位を使用。

■ 監視体制

大気、河川、及び海域の環境を守るため、法規制より厳しい自主管理基準を設けて、従業員が24時間常駐し監視しています。

■ 法令項目

窒素酸化物(NOx)/全窒素(T-N)/全リン(T-P)/化学的酸素要求量(COD)/浮遊物質量(SS)/フッ素(F)/水素イオン指数(pH)は24時間連続自動監視を行っています。その他の法令項目はサンプリングにより監視しています。

■ 法令以外の項目

法令以外の項目についても、管理強化のためサンプリングによる自主管理を行っています。

■ 分析センター

工場内に分析センターを設置し、年間約45,000件を分析しています。



水質自動測定



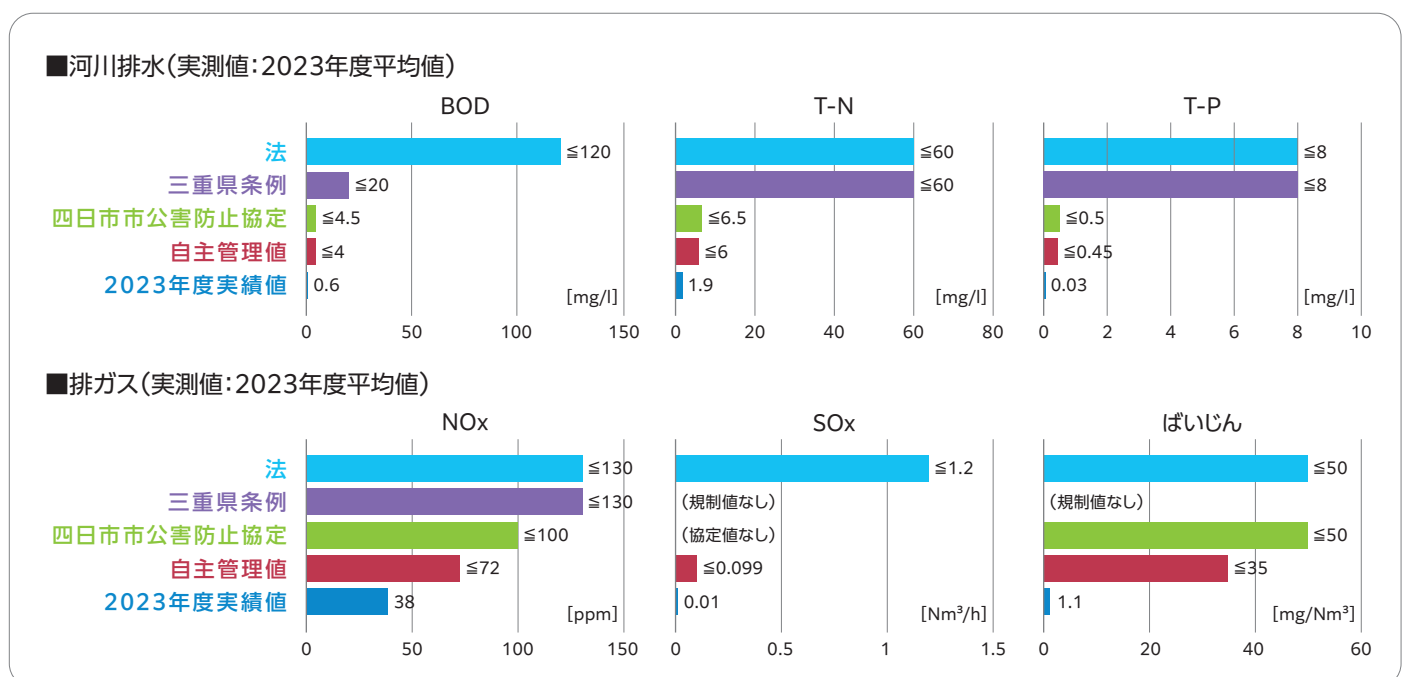
水処理設備監視システム



分析センター

■ 大気・水質の管理状況

法令・条例・協定値を確実に順守するため、自主管理値(約40項目)を設定して日常管理しています。排水(BOD, T-N, T-P)、排ガス(NOx, ばいじん, SOx)の管理状況を示します。





環境施設

排水処理施設などの環境施設において、当社独自のガイドライン「環境構造物指針」を定め、化学物質による汚染の未然防止・リスク低減を図っています。

■ 構造物事例

排ガス洗浄装置



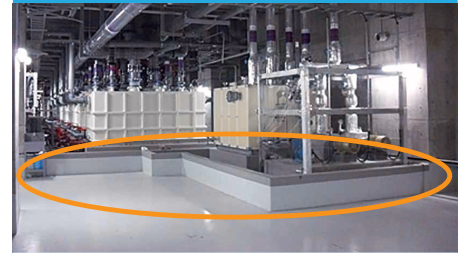
安定処理のための構造・仕様

架空配管



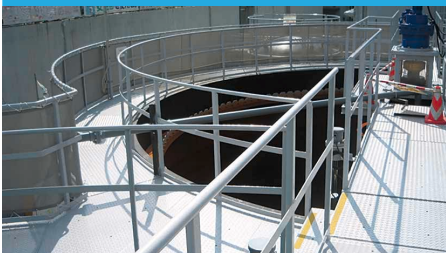
土壌汚染のリスク低減
(埋設配管なし)

防液堤



地下・公共用水域への流出防止

水処理施設



安定処理の仕組みと
異常排水の流出防止

継手部二重化



継手部からの漏洩防止と監視

六面点検



基礎部に切欠を入れる
ことで、底部からの
漏洩を早期発見

六面点検による異常の早期発見

緊急事態対応訓練

当工場では、さまざまな薬品を使用しています。これらを取扱う設備の故障や自然災害等により、緊急事態の発生が想定される環境リスクの高い設備と作業を選び出し、その全ての対処方法を標準化しています。万が一、緊急事態が発生しても速やかに対処できるよう、緊急事態対応訓練を定期的を実施しています。

2023年度は構内常駐会社を含む40回の訓練を実施し、のべ396名が参加しました。訓練後、対処方法の有効性を確認するとともに、必要に応じて改善を図っています。



薬品漏洩を想定した対応訓練

法令順守

当工場に適用される環境法令、その他要求事項を明確にするとともに、製造・動力設備の調達時、適用される法令の該否をチェックし、法規制の対応漏れ防止を徹底しています。

■ 法令の一元管理

随時改正される環境法令に漏れなく対応するため、定期的に改正内容を確認しています。当工場に適用される改正内容を「法令登録一覧表兼順守評価表」に反映し、一元管理しています。

■ 順守評価

毎年、当工場に適用される環境法令の順守状況を評価しています。2023年度は全ての法的要求事項に対し問題ありませんでした。

■ 設備投資・設置時の順法チェック

設備投資及び調達時に、水質汚濁防止法や県条例など全10法令の該否を判定し、該当する設備については、必要に応じて届出等を実施しています。

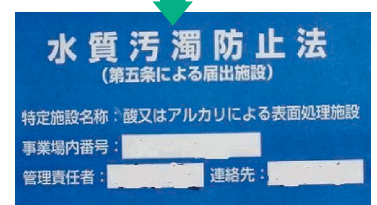
■ 順法管理の見える化

順法チェックの結果、該当する設備に「該当法令」等を示すステッカーを貼り付け、順法管理の見える化を徹底しています。



順法システム

設備調達時に法令の該否をチェック



ステッカーによる順法管理の見える化

よくあるQ&A

Q 建屋屋上からの煙は？

A 冷却塔から排出される空気が外気によって冷やされ、水蒸気となって白く見えるものです。



冷却塔

環境測定データ

大気測定結果

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx (ppm)	130以下(大気汚染防止法)	72以下	38	1回/年
SOx (Nm ³ /h)	1.2以下(大気汚染防止法)	0.099以下	0.01未満	1回/年
ばいじん (mg/m ³)	50以下(大気汚染防止法)	35以下	1.1	2回/年

(実測値は2023年度の平均値)

排水測定結果(No.1排水口(第1~第5製造棟):河川)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
pH	5.8~8.6(三重県条例※1)	6.5~8.0	6.6~7.7	1回/月
BOD (mg/L)	20以下(三重県条例※1)	4.0以下	0.6	1回/月
COD (mg/L)	20以下(三重県条例※1)	4.0以下	2.5	1回/週
SS (mg/L)	70以下(三重県条例※1)	3以下	1未満	1回/月
窒素(mg/L)	60以下(水質汚濁防止法)	6.0以下	1.9	1回/週
燐 (mg/L)	8以下(水質汚濁防止法)	0.45以下	0.03	1回/月
フッ素(mg/L)	8以下(水質汚濁防止法)	4.5以下	1.1	1回/週

※1 三重県生活環境の保全に関する条例

(実測値は2023年度の平均値)

排水測定結果(No.2排水口(第6製造棟/第7製造棟):海域)

	規制値	自主管理値	実測値(第6製造棟)	実測値(第7製造棟)	測定頻度
pH	5.0~9.0(水質汚濁防止法)	6.5~8.0	7.1~7.7	7.1~7.6	1回/月
COD (mg/L)	120以下(水質汚濁防止法)	10以下	4.0	1.9	1回/週
SS (mg/L)	150以下(水質汚濁防止法)	8以下	1未満	1未満	1回/月
窒素(mg/L)	60以下(水質汚濁防止法)	15以下	3.0	1.7	1回/週
燐 (mg/L)	8以下(水質汚濁防止法)	1以下	0.10	0.02未満	1回/月
フッ素(mg/L)	15以下(水質汚濁防止法)	12以下	3.6	2.5	1回/週

(実測値は2023年度の平均値)

騒音・振動測定結果(西エリア)

	測定場所:時間の区分	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:朝・夕	対象外	55※2以下	51	4回/年
	敷地境界:昼	対象外	60※2以下	51	4回/年
	敷地境界:夜	対象外	55※2以下	51	4回/年
振動(dB)	敷地境界:昼	対象外	50※2以下	35	1回/年
	敷地境界:夜	対象外	50※2以下	35	1回/年

騒音・振動測定結果(東エリア)

	測定場所:時間の区分	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:朝・夕	50※2以下(三重県条例※1)	-	49	4回/年
	敷地境界:昼	55※2以下(三重県条例※1)	-	54	4回/年
	敷地境界:夜	45※2以下(三重県条例※1)	-	44	4回/年
振動(dB)	敷地境界:昼	60※2以下(三重県条例※1)	-	30未満	1回/年
	敷地境界:夜	55※2以下(三重県条例※1)	-	30未満	1回/年

※1 三重県生活環境の保全に関する条例

※2 西エリア・東エリア規制値は地点により運用される規制値が異なるため、最も厳しい規制値と実測値(最大値)を表記

■ 環境負荷(マテリアルバランス)

■ 投入

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
化学物質*	t	47,173	53,905	55,262	50,806	43,490
市水	千m ³	30	22	31	49	33
工業用水	千m ³	19,766	21,076	21,485	21,573	21,016

※削減対象物質

■ 排出

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
温室効果ガス	千t-CO ₂	2,136	2,205	2,150	1,993	1,862
化学物質*	t	518	586	562	478	377
廃棄物	t	81,211	90,161	93,636	85,180	70,629
排水量	千m ³	14,733	15,857	16,191	16,196	15,605
NOx	t	27	25	23	29	31
SOx	t	0	0	0	0	0

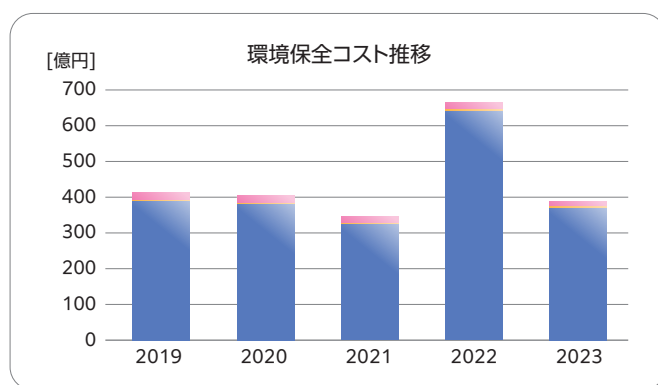
※削減対象物質

■ 環境会計

事業活動に関わる費用のうち、環境負荷を低減するための措置に投じるコストを環境省が定める「環境会計ガイドライン2005年版」に従って毎年計上しています。

2023年度は排ガス・排水処理設備の導入・維持管理などの環境対策のため388億円を投資しました。

■	資源有効活用・廃棄物減量などのためのコスト
■	その他のコスト(温暖化防止、ISO14001運用、グリーン調達など)
■	大気・水質保全等公害防止のためのコスト



■ PRTR(化学物質の排出量・移動量等の把握)

PRTRとは、どのような化学物質が、どこから、どのくらい、環境(大気・公共用水・土壌など)中へ排出されているか(排出量)、廃棄物などとして移動しているか(移動量)を把握し、集計・公表する制度です。「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法)では、第一種指定化学物質の年間取扱量が1t以上(特定第一種

化学物質においては0.5t以上)となった場合に排出量・移動量を報告することが義務付けられています。

当工場では、排出量・移動量以外にも取扱量・消費量・除去処理量・リサイクル量を合わせて開示しています。

※PRTR:Pollutant Release and Transfer Register

■ 2023年度PRTR対象物質データ(単位:t/年)

物質番号	化学物質名	取扱量	排出量					移動量			消費量 ※1	除去 処理量 ※2	リサイ クル量 ※3
			大気	公共 用水	土 壌	事業所内 埋立	合計	廃棄物	下水道	合計			
1	亜鉛の水溶性化合物	2.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.40	0.00
272	銅水溶性塩(錯塩を除く)	4.66	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.66	0.00	4.66	0.00	0.00	0.00
302	ナフタレン	2.64	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	2.63	0.00	2.63	0.00	0.00	0.00
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	4112.13	1.73	0.00	0.00	0.00	1.73	139.88	0.00	139.88	0.00	2893.30	1077.22
395	ペルオキシ二硫酸の水溶性塩	25.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.52	0.00	0.52	0.00	25.36	0.00
405	ほう素化合物	1.04	0.00	0.67	0.00	0.00	0.67	0.37	0.00	0.37	0.00	0.00	0.00
412	マンガン及びその化合物	1.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	1.20	0.00
438	メチルナフタレン	5.88	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	5.85	0.00	5.85	0.00	0.00	0.00
453	モリブデン及びその化合物	1.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.12	0.00
565	アクリル酸重合体	1.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.27	0.00	1.27	0.00	0.00	0.00
595	エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	99.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	99.68	0.00
627	ジエチレングリコールモノブチルエーテル	7.38	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.38
665	セリウム及びその化合物	28.35	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	28.35	0.00	28.35	0.00	0.00	0.00
677	テトラメチルアンモニウム=ヒドロキシド	1022.42	0.00	2.92	0.00	0.00	2.92	140.69	0.00	140.69	0.00	14.46	864.35
708	(1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイル)ジホスホン酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	8.35	0.00	7.07	0.00	0.00	7.07	0.25	0.00	0.25	0.00	1.04	0.00

※1 消費量は、製品に含有もしくは同伴されて場外に持ち出される量をいいます。

※2 除去処理量は、工場内で中和・分解・反応処理などにより他物質に変化した量をいいます。

※3 廃棄物移動量がリサイクル量は、外部への処理委託が有価か無価で決まります。したがって、リサイクル目的であってもお金を払って処理を委託している場合は、廃棄物としての移動量になります。



■ 四日市工場の軌跡

1992年	四日市工場設立	2007年	第4製造棟 操業開始
1993年	第1製造棟 稼働開始 16Mbit DRAMの生産開始	2008年	先端メモリ開発センターの始動
1996年	ISO14001 取得 第2製造棟 稼働開始 64Mbit DRAMの生産開始 メモリ前工程の海外生産拠点として米国に設立した ドミノン・セミコンダクタ社の支援を開始	2011年	第5製造棟 操業開始(第1期) NAND型フラッシュメモリ 累計生産100億個(1GB換算)達成
1997年	16Mbit DRAM 生産累計1億個を達成	2012年	四日市工場 設立20周年
1998年	四日市東芝エレクトロニクス社が発足	2013年	「GOOD FACTORY賞(日本能率協会主催)」にて「ファクトリーマネジメント賞」受賞
1999年	NAND型フラッシュメモリの生産を開始	2014年	第5製造棟 操業開始(第2期)
2001年	汎用DRAMの製造・販売からの撤退を発表 四日市東芝エレクトロニクス社 解散	2016年	3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」量産開始 新・第2製造棟 操業開始
2002年	四日市工場 設立10周年 フラッシュビジョン社を米国バージニア州から四日市工場へ移転 ラインエンジニアの24時間体制により24時間技術が動く工場へ	2017年	株式会社東芝のメモリ事業の会社分割により、東芝メモリ株式会社四日市工場として運営開始 人工知能学会「2016年度現場イノベーション賞・金賞」受賞
2003年	朝日テストセンター開所 ISO9001:2000取得	2018年	第6製造棟 操業開始 開発センター棟の竣工
2005年	第3製造棟 操業開始(300mmウェハに対応) NAND型フラッシュメモリ 累計生産10億個(64MB換算)達成	2019年	キオクシア株式会社への社名変更により、キオクシア株式会社四日市工場として運営開始
		2021年	キオクシアアドバンスドパッケージを吸収合併し後工程を強化
		2022年	四日市工場 設立30周年 RBA(Responsible Business Alliance(責任ある企業同盟))監査にて 最高位のプラチナ・ステータス認証を取得 第7製造棟 竣工

■ 環境活動のあゆみ

1990年	四日市市と公害防止協定締結
1991年	四日市市山之一色町自治会と公害防止協定締結、山之一色町地元連絡会開始
1996年	BS7750環境マネジメントシステム認証取得、ISO14001:1996 環境マネジメントシステム認証取得
1999年	リサイクル推進協議会会長賞
2000年	中部通産局長賞(エネルギー管理優良工場熱部門)、省エネルギーセンター会長賞、産業廃棄物ゼロエミッションを達成(1999年度実績)
2001年	中部経産局長賞(エネルギー管理優良工場電気部門、エネルギー管理功労者)
2003年	朝日町と公害防止協定締結、資源エネルギー庁長官賞(エネルギー管理優良工場熱部門)、四日市工場環境報告書初版発行
2004年	資源エネルギー庁長官賞(エネルギー管理優良工場電気部門)
2005年	ISO14001:2004 環境マネジメントシステム認証取得
2006年	省エネ優秀事例全国大会省エネルギーセンター優良賞
2007年	Kids'ISO14000プログラム開始(子ども環境教育)、ISO14001:2004 環境マネジメントシステム統合認証取得
2008年	PRTR優秀賞(審査員特別賞)
2009年	こどもよっかいちCO ₂ ダイエット作戦開始(子ども環境教育)、ボイラー管理優良事業場表彰
2010年	関西エコオフィス大賞(奨励賞)、エコキッズCO ₂ ダイエット大作戦開始(子ども環境教育)
2011年	第49回全日本ボイラー大会技術賞
2012年	省エネ大賞(省エネルギーセンター会長賞)、3R推進功労者等表彰(会長賞)、国際グリーンアップル賞(銀賞)
2013年	中部経済産業局長表彰(エネルギー管理優良事業者)、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)、3R推進功労者等表彰(会長賞)、第2回みえ環境大賞(環境経営部門)
2014年	3R推進功労者等表彰(会長賞)、資源循環技術・システム表彰(経済産業大臣賞)
2015年	省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)
2016年	省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)、四日市市都市緑化関係功労者表彰、三重県社会福祉大会感謝状受賞
2017年	ISO14001:2015 環境マネジメントシステム認証取得、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)
2018年	ペットボトルキャップ回収「功労賞」受賞、「四日市公害と環境未来館」での環境教育開始、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)
2019年	四日市市環境活動賞受賞、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)
2020年	四日市市都市緑化関係功労者表彰、気候変動アクション環境大臣表彰受賞、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)
2021年	四日市市社会福祉協議会より感謝状(フードドライブ等で4件拝受)、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)、日本ユネスコ協会より感謝状(ユネスコ世界寺子屋運動)
2022年	四日市市社会福祉協議会より感謝状(フードドライブ等で2件拝受)、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)、日本ユネスコ協会より感謝状(ユネスコ世界寺子屋運動)
2023年	四日市市社会福祉協議会より感謝状(フードドライブ等で2件拝受)、省エネルギーセンター東海支部長表彰(省エネ推進功労者)、日本ユネスコ協会より感謝状(ユネスコ世界寺子屋運動)

編集方針

この報告書は、キオクシア株式会社四日市工場の環境経営(環境マネジメント、事業活動における環境負荷低減など)に関して、皆様に一層ご理解いただくことを目的としています。

この報告書は、環境省発行の「環境報告ガイドライン2018年版」を参考にして編集しています。

■ 報告書記載内容の対象期間

活動実績データは、2023年度(2023年4月1日~2024年3月31日)の活動が中心となっていますが、一部それ以前、あるいは2024年度の活動を含んでいます。

■ 対象組織

キオクシア株式会社
四日市工場*及び朝日テストセンター
*駐在部門及び構内常駐会社を含む。

Webサイトで当社の環境情報をご覧ください

キオクシアグループの
サステナビリティへの取り組み



四日市工場の
環境への取り組み



キオクシア株式会社

四日市工場
施設管理部 環境保全担当

〒512-8550 三重県四日市市山之一色町800番地
TEL.059-330-1025 FAX.059-330-1134